



算術、幾何、比および比例の総覧／ルカ・パチョーリ 第二版 1523年

Summa de Arithmetica Geometria Proportioni et Proportionalita ... / Luca Pacioli.

CONTENTS

- 新図書館長からのメッセージ 図書館長／山口ヨシ子 2頁
 平塚図書館長／榎原 貞雄 3頁
- 2016年6～7月 図書館展示報告
 「妖怪-変化するものたち-」^{へんげ} 4頁
- 視聴覚資料室から
 “いいとこ取り”の音楽 -コンピレーション・アルバムを聴く- 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介
 『至福の書』、写本の細密画家、そして『わたしの名は紅』^{あか} 7頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 8頁

現代学生のニーズに即した図書館の構築に向けて

神奈川大学図書館長 山口 ヨシ子

日米あわせて五つの大学で学んだが、いずれの学生生活においても、図書館はその中心にあった。主人公に自己投影しながら小説を楽しんだのも、膨大な課題図書に必死で挑んだのも、図書館であった。友人たちとしばし離れて自分自身と向かい合う至福を図書館はいつも提供してくれたように思う。「ライブラリー・ガール」と呼ばれ、図書館に居場所を見つけていた自分の姿は、それぞれの図書館の施設や取り組んでいた課題の内容と共に今でも鮮明に浮かびあがってくる。

大学に就職後も図書館には多大な支援を受けてきた。19世紀アメリカの大衆文学を日本で研究するには、図書館の援助なしには一歩も進まないからだ。図書館長からの紹介状を携えて英語圏の図書館をめぐり、マイクロフィルムとの格闘に明け暮れた思い出も多々ある。図書館間相互貸借 (Interlibrary Loan, ILL) を利用して、幾多の文献を取り寄せていただいてもいる。入手困難と思っていた資料を遠く海外からも取り寄せていただき、手にしたときの喜びは深く、利用者サービスに徹した図書館員の方々に常に助けられている。

大学図書館の利用者の一人として、この十数年を振り返っても、情報通信技術の発達に伴う図書館機能の向上には目を見張るものがある。古い貴重本を電子化し、ウェブ上に公開して不特定多数の読者に提供している図書館も少なくない。先日は、インディアナ大学の稀観書図書館リリー・ライブラリーが所蔵する、約200年前の稀観書をスキャンしていただき、読むことができた。利用者登録をウェブ上で行い、クレジット・カード番号を電話で伝えただけで、19世紀初頭のアメリカで大衆の間に流布していた「パンフレット小説」と呼ばれる貴重な図書のコピーを即座に電送してくださった。図書館間相互貸借の対象にはなり得ない稀観書であっても、利用者の便宜を最大限に図ろうとする姿勢

に頭の下がる思いであった。神奈川大学とインディアナ大学双方の図書館員がメールで綿密に連絡を取り合って援助してくださったお陰でもあり、日米双方の有能で親切な図書館員に助けられた形となった。

1970年代以降の変わりゆく大学図書館の歴史を、学生として、研究者として、身をもって体験してきたわけだが、神奈川大学図書館の現状を、教員として、この歴史に当てはめてみると、取り組むべき課題は多いと言わなければならない。もっとも重要な課題は、現代学生のニーズに即した魅力ある大学図書館の構築である。とりわけ、学生が多様な情報源から得た情報をもとに深く思考し、自らの意見を加えて発信する能力を養う、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の実践を支援する施設・体制の整備は急務であると思われる。

文部科学省が2010年12月に公表した「大学図書館の整備について (審議まとめ) - 変革する大学にあって求められる大学図書館像」では、大学図書館に求められる機能・役割として、学習支援及び教育活動への直接関与をうたっている。神奈川大学図書館は、このような大学図書館に求められる重要な教育支援活動の一環として、2006年より始まった初年度教育科目FYSの授業で、図書館利用と情報検索のガイダンスを実施し、論文の書き方の講習会なども開催してきた。施設面においても、アクティブ・ラーニングを支える施設設備「ラーニング・コモンズ」機能の充実を努めてはきた。しかし、情報通信技術の恩恵に埋もれて過ごしながらか、それらを整理・活用し自らの思考形成に役立てることが不得手な現代学生に対する支援としては、十分とは言えない。電子機器の扱いが得意な学生がその特質を生かしつつ、多様な情報を精査して主体的な学習活動を展開できるような「場」の抜本的な整備と、そのような学習活動を支援するシステムの確立が早急に求められている。

大学図書館はどこへ

神奈川大学平塚図書館長 榊原 貞雄

経営学を専門にしている教員として、企業はどのようにして企業経営を進化させ、競争力をたもつことできるのかを考える機会が多い。企業経営でむずかしいのは、経営環境の変化に合わせて常に新しい視点と行動で、経営環境の変化に対応し続けることである。それができない企業は衰退していく。これと同じ視点で大学図書館について俯瞰を試みてみた。

図書館をとりまく近年の変化で、特筆すべきは電子媒体による読書環境の急激な進化であろう。大学図書館における蔵書デジタル化の先駆者としては、米国のスタンフォード大学をあげることができる。スタンフォード大学図書館長であったマイク・ケラー氏は、1999年からスイス製のロボットスキャンマシンを導入し、全ての書籍のデジタル化プロジェクトを推進してきた。アメリカの大手検索会社、グーグル社の電子化書籍「グーグル・ブックス」の展開は、グーグル創始者が、かつて在籍したスタンフォード大学の図書館での蔵書デジタル化プロジェクトへの協力がきっかけとなったと言われている。グーグルはスタンフォード大学図書館でのデジタル化での経験で電子書籍の商業化に参入できたわけである。こうした情報のデジタル化とインターネットにおける情報の共有化は書籍だけでなく、写真や動画などのあらゆるコンテンツに大きな広がりを見せている。

現在ほとんどの学生はスマートフォンやタブレットを持ち、グーグルに代表される検索技術の発展により、膨大な情報群の中から自分が興味や関心のある情報を収集することが容易になった。これは学生にとっても大きな学習環境の変化で、レポート作成における苦労が大きく削減されるようになった。そのような利点と同時に、多くの資料から「カット・ペースト」機能を使って他人の意見の切り貼りだけでレポート等の提出物の作成が可能になった。そこには伝統的な、多くの書物を読み、自分の分析・意見を加味しながらの知的成長の訓練がスッポリ抜けてしまっている。無視することのできない、大きな負の産物である。

図書館の書物を含めた電子化の流れは、図書館外からの情報収集で学校生活を送ることがより可能な状況をつくりだしてきている。その結果として、大学図書館の利用率低下にともなう存在価値の低下とともに、図書館の衰退の危険がともなう可能性もでてくる。そういったリスクを避けるためにも、図書館はただ情報を提供する場所ではなく、ワークステーションがならび、リラックスできるソファもあり、小さく区切られた部屋で少人数のグループでモニターやタブレットを見ながら、意見交換する場などを提供する環境を創り出す必要がある。情報提供の場ではなく、知的成長を助ける環境を提供する「場」にすることが求められている。伝統的な多くの本が並んだ書架に囲まれた静かな空間で、黙々と読書に励む学生の姿をこれからの図書館からイメージすることはできない。

また電子媒体の発達は、新しいタイプの図書館人材の必要性を暗示している。前出のマイク・ケラー氏は、これからの図書館にはデジタル情報への優れた感性を持つ人材が必要であると提案している。それは単なる「Librarian」ではなく、「Cybrariann」(CyberとLibrarianからできた造語)で、情報科学の知識を十分持ちながら、デジタルコンテンツを活用することができる、「新しいタイプの図書館司書」を意味する。

デジタル化された膨大な情報の中から、利用者の要望に応じて、上質な情報を的確に提供できる人材は、大学の教員・研究者の研究環境を劇的に変える力をもっている。このような人材を訓練し、図書館を「知的成長の場」へと変革するのは簡単ではなく、努力が必要となるが、大学図書館が評価を得るのに避けて通れない道ではないだろうか。



かつて人々は、夜の世界を恐れていました。闇の中には、目に見えない恐ろしいものが潜んでいると信じていたからです。木陰から聞こえる物音、吹き抜ける風、明滅する光、夜の世界ではどんな些細な現象も恐怖の対象でした。

やがて、人々は不思議な現象に名前をつけるようになりました。初めは形のなかったものが人から人へと語り継がれていく中で、徐々に形を持った存在として認識されるようになり、人々はそれを「妖怪」と呼びました。

日本には古くから、どんなものにも魂がこもっていると信じる文化があります。動物が人間に化ける話、食器などの器物が動き出す話、人間が恨みを持って鬼になる話など、私たちの知っているものが「変化」して人々を驚かさず話^{へんげ}は日本各地で語られ、今もなお残されています。

今回の展示では「変化」をテーマにし、絵巻物や書物の中で語られた妖怪に関する資料を集めました。その中の一部をご紹介します。



百鬼夜行絵巻(真珠庵本)

「百鬼夜行絵巻(真珠庵本)」は、室町時代後期(16世紀)に土佐光信により描かれたとされる絵巻物で、現存する最古の百鬼夜行図とされています。京都大徳寺の真珠庵に所蔵されていることから、「真珠庵本」と呼ばれています。

「百鬼夜行絵巻(真珠庵本)」は、その多彩な色彩と躍動感のある筆致から、百鬼夜行図といえ第一にイメージされると言ってもいいほどの知名度を誇りますが、絵巻物自体には物語を説明する詞書がなく、実際には何を目的に描かれた物であるかがわかっていません。特徴的なのは、描かれている妖怪のほとんどが「付喪神」と呼ばれる器物の妖怪であるとい

うことです。器物が捨てられてから妖怪変化となり、人間に復讐するまでの一連の流れを描いた絵巻物『付喪神記』には、妖怪たちが祭礼行列を行う場面が描かれていますが、本絵巻はその場面のみを描いたものではないかとする説もあります。

付喪神

付喪神とは、古い器物が100年の年月を経て霊的な力を獲得し、妖怪化したものとされています。日本には古くから、生命を持たない物体にも魂の存在を認めるアニミズム的信仰がありました。付喪神は、その信仰を基盤に生まれたものと考えられています。



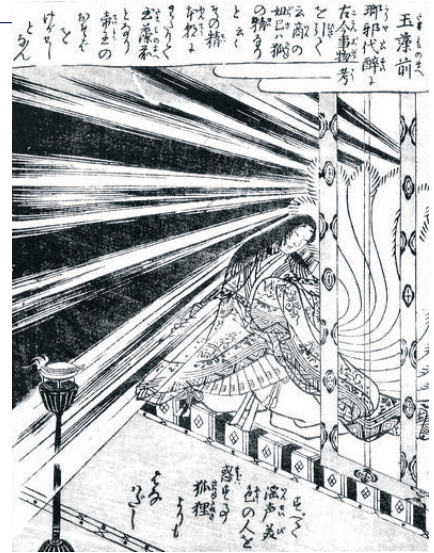
「付喪神」という言葉がはじめて使われたのは、室町時代に成立した『付喪神記』とされていますが、器物が妖怪変化する話は、古くは『今昔物語集』や『土蜘蛛草紙』などの室町以前の書物にも記されています。

玉藻前

日本には古くから、不思議な力を持つと信じられてきた動物たちがいました。その中でも、とりわけ狐が変化して人間を騙す話は多く存在しています。

「玉藻前」は、天竺（インド）、震旦（中国）で人の命を奪い、さらなる悪事をはたらくために日本に上陸してきた金毛九尾の妖狐で、その姿は絶世の美女であったと伝えられています。玉藻前についての記述がはじめて登場するのは、15世紀前半に成立した史書『神明鏡』とされています。

正体を見破られ退治された玉藻前の怨念は、近づくものを殺す「殺生石」となりました。殺生石は、栃木県那須町に史跡として現存しており、俳人の松尾芭蕉も訪れたことが『おくのほそ道』に書かれています。



道成寺縁起

怒りや憎しみによって心に鬼を宿した人間もまた、妖怪変化をすると信じられてきました。「道成寺縁起」は、美しい青年僧に恋をした女が、自分を欺いた僧を執念で追いまわし、大蛇の姿となる物語です。

展示した図版は、室町時代（15世紀後半）に描かれた絵巻物で、詞書は後小松院、絵は土佐光重によるものとされていますが、同様の話は『大日本国法華経験記』や『今昔物語集』といった室町時代以前の書物にもみられます。その後も「道成寺物」として歌舞伎や浄瑠璃の題材とされることが多く、「安珍・清姫」の伝説として語り継がれています。

百器徒然袋

『百器徒然袋』は、天明4年（1784年）江戸時代の絵師、鳥山石燕によって描かれた上・中・下3部構成の妖怪画集です。器物が変化した妖怪「付喪神」が多く描かれており、室町時代の「百鬼夜行絵巻（真珠庵本）」や鎌倉時代の「徒然草（吉田兼好著）」にヒントを得て生み出されたと思われる妖怪が多数収録されています。



琵琶牧々（鳥山石燕著『百器徒然袋』より）

（2016年度 図書館展示）

へんげ
「妖怪 ～変化するものたち～」

【期間】 6月4日(土)～7月14日(木)

【場所】 横浜図書館 1F展示コーナー

“いいとこ取り”の音楽 —コンピレーション・アルバムを聴く—

音楽配信サービスの登場ですっかり売り上げが減少してしまったコンパクト・ディスク。視聴覚資料室でも利用が多いのはDVDなどの映像資料ですが、図書館ではジャズ、クラシックからポップス、ロック、映画音楽など、たくさんの録音資料を所蔵しています。現在では音楽を「アルバム」という単位で聴く事は少なくなっているようですが、コンピレーション・アルバムやオムニバス・アルバムといった複数のアーティストの曲が一枚のCDに収録されている企画ものは、ヒット曲や人気のある楽曲だけを集めて収録している盤も多く、一枚のCDを聴く長さを感じさせることなく楽しめます。



**クラシック初心者にぴったり
一度は聴いたことがある有名な曲ばかり！**
作曲家別「大好き」シリーズ [請求記号] R7A-131, 他
シーン別BGMクラシックシリーズ [請求記号] R6A-194, 他



**ヒット曲だけ聴きたい！
グラミー賞ノミネート楽曲収録**
“グラミー・ノミネーズ2015, 2016 他”
[請求記号] R764.7-115, 116-329, 他



クリスマス・ソングが好きだ！
U2、クイーン、ホイットニー…
ロック、ポップスのスターがクリスマス・ソングを歌う
“クリスマス・エイド” [請求記号] R6C-8
“ワンダフル・クリスマス” [請求記号] R6E-15

歴代 007 の主題歌が聴きたい！
ゴールドフィンガー、ダイヤモンドは永遠に、死ぬのは奴らだ…もちろん
ジェームズ・ボンドのテーマも収録
“ジェームズ・ボンド
グレイテスト・ヒッツ”
[請求記号] R6B-10



**偉大な
ロックギタリストの名演を聴く！**
ジミヘン、クラプトン、ジョニー・ウインター…
“栄光のギター・ヒーロー”
[請求記号] R6B-27



『至福の書』、写本の細密画家、 そして『わたしの名は紅』

『至福の書—The Book of Felicity』(ファクシミリ版)：A148-6 (横浜)

『わたしの名は紅』：B 929-356 (横浜) 929.573-1 (平塚)

小説『わたしの名は紅』は、殺された死体のモノログで始まる。頭を割られ、井戸に投げ込まれたその死体は“最後の息をしてからかなりになる”と語りつつ、“優美さん”と呼ばれ写本の細密画家として生きていた時を回想する。— 幸せだった。幸せだったのが今わかる。スルタンの細密画の工房で一番いい仕事はわたしが手がけていた — この「わたしは屍」という章を最初に「わたしの名はカラ」「わたしは犬」「わしはお前たちのエニシテだ」「あたしの名はエステル」「わたしは一本の木だ」など、全部で59ある章の語り手が次々と変わり、それぞれの視点で物語が語られる。

2006年にノーベル文学賞を受賞したトルコ人作家、オルハン・パムクによるこの小説の舞台はオスマン・トルコ帝国のスルタン、ムラト三世統治下の1591年、イスラム暦一千年目の記念の前年である。本書はミステリーとしても面白いが、その中心にあるのは装飾写本の挿絵を描く細密画家達と当時のイスラム社会の物語である。実際に細密画や写本に深く関心を持っていたムラト三世の統治下においてオスマン朝写本文化は最盛期を迎えた。そして物語にはこの時代に生きた実在の細密画家も登場する。ラスト近くで主人公カラと共に犯人を推理する「名人オスマン」のモデル、ウスタッド・オスマンは1570年から宮廷の工房に入り、話の中にも出てくる写本『祝賀本』を実際に手がけ、その弟子とともに美しい細密画を描いた人物である。



ムラト三世の肖像



『至福の書』の装丁

『至福の書』は「名人オスマン」ことウスタッド・オスマンが実際に細密画を描いた豪華装飾写本である。ムラト三世が103人いた子供の中の一一人、ファティマのため1582年に制作させた。内容は占星術や天体が人間に及ぼす影響に関する記述で、クルアーンやシャー・ナーメ (イラン民族叙事詩)、千夜一夜物語などからインスピレーションを受けて書かれた。そして美しい挿絵がオスマン率いる工房の細密画職人達の手によって描かれている。イスラム文化圏では生きたものの姿を描くことは禁じられていると聞くが、世俗的な事物を扱った書物など

に関しては描写が許されているようだ。『至福の書』にも多くの動物や人の姿が描かれ、中には見たことのない奇妙な生き物が強烈な色彩を纏って現れる。イスラムの写本研究者によれば、その絵画の持つ写実性や精神には西洋の基準とは異なる文化圏独自の特徴があり、現在一般的な基準になっている西洋美術の視点で鑑賞すると、そこに描かれているものを見落とすことになるのだと言う。小説でも絵画表現における「異国」である西洋との価値観の違いとそれに対する細密画家達の迷いや苦悩が物語の重要な要素になっている。人はなじみのない世界に対しては戸惑い、理解できずに苦しむことがある。しかし、遠く異国の地で古の細密画家達が美しく彩った『至福の書』が私達にもたらすのは、未知のものに対する戸惑いを忘れさせるほどの驚きと喜びに満ちた美しい世界である。



(図書館資料サービス課 荻原 直子)

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

■夏季長期貸出について

貸出期間……7月11日(月)～9月16日(金)

返却期限……9月30日(金)

対象……学部生

冊数……10冊

■一般公開休止について

前期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間……7月1日(金)～7月30日(土)

■一斉休暇に伴う休館について

期間……8月11日(木)～8月17日(水)

横 浜

■夏季休業中の開館スケジュールについて

期間……8月1日(月)～9月16日(金)

開館時間……9:30～18:00

○3Fは閉室します。

※日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

平 塚

■夏季休業中の開館スケジュールについて

期間……8月1日(月)～9月16日(金)

開館時間……9:10～16:50

○視聴覚閲覧室は閉室します。

※土・日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

編集後記

大学図書館は学部・学科のカリキュラムに則した資料を中心に収集している。しかしそれ以外の分野の資料がないわけではなく、幅広い知識を育んでもらうために様々なジャンルの本が所蔵されている。あえて自分の専攻とは関係のない本を読んでもみるのも楽しい事だろう。

例えば、医療の歴史などといった本を読んでもると以外と面白い。医療行為というものは古代から行われており、紀元前18世紀のハンムラビ法典には外科手術の報酬に関する記録が残っている。古代エジプトにはすでに眼、頭痛、歯などの専門医がいた。またトルコのベルガマには紀元前4世紀頃「総合病院」があった。今ではアスクレピオン遺跡と呼ばれ観光地になっているその場所は、ギリシア神話の医神アスクレピオスの聖域にあった療養所で、リハビリやリラクゼーションのための施設もあったらしい。古代の人々の医療に対する考えは我々が想像するよりもはるかに進んでいたことが分かる。

アスクレピオンには、天井に穴があけられた地下道があって毎日患者にそこを歩かせたという。そうして天井から「あなたは良くなりますよ」と医師が囁くことで患者に暗示をかけて治療したそうだ。暗示による治療法に頼っていた歴史には悲しいものを感じるかもしれないが、今や書店に行けば健康関連の本が沢山並び「～すれば治る!」という、買っただけで治った気になりそうなタイトルの本であふれている。暗示が生む効果については良く知られているが、その療法は今でも形を変えて存在し続けているのかもしれない。

厳しい夏、体調を崩さぬよう気を付けたいものである。(N.E.)



今号の表紙

ルカ・パチョーリ『算術、幾何、比および比例の総覧』第二版 1523年

Summa de Arithmetica Geometria Proportioni et Proportionalita ... /

Luca Pacioli Toscolano : Paganino de Paganini, 1523

本書は複式簿記を広めた現存する最古の簿記書と言われ、会計学に大きな影響を与えた書物である。初版は1494年に刊行され、本学図書館では初版、第二版を所蔵している。書名の“総覧”から“スンマ”という呼び名で広く知られている。